

えんぼとたんぼの始発駅 里山ビオトープ二俣瀬	<b>会 報 第 33 号</b>	2004年4月23日 里山ビオトープ二俣瀬をつくる会 編集責任者：西原 一誠
---------------------------	-------------------	--

### 1. 活動報告（事務局 記）

4月4日（日）平成16年度総会 新年度の行事、活動スタート  
4月17日（土）参集日草刈り、（自然観察隊食べられる野草準備、（餅つき、天婦羅））  
同午後平成16年度里山自然観察隊発会式および第一回観察隊食べられる野草観察  
隊員32名と保護者23名と会員17名という多くの人数で行われました。

### 2. 今後の予定（事務局 記）

見学者

5月22日（土）ファミリーサポートセンタ 甲田さんほか90名 ご案内3名募集中  
6月2日（水）常盤小学校2年生 吉本先生ほか95名 ご案内3名募集中

行事

参集日 第一日曜日（5月2日）

第三土曜日（5月15日）

5月22日（土）里山自然観察隊（野鳥観察）

田植準備 荒起し、代掻き、畔（アゼ）塗り、溝普請参画

7月初旬他中国電力（株）宇部電力所柴田さんほか例年の草刈り奉仕作業申し込み

### 3. ビオトープ関連（ビオトープ周辺の植物） 美濃和 信孝

#### ムラサキサギゴケとカキドオシ

4月に入って、ビオトープの草はらは、にわかに色とりどりの草花で覆われるようになってきました。その中で、今回は紫色の花をつけるふたつの草を紹介します。

ムラサキサギゴケの名前の由来は、「紫色の鷺のかたちの花をつける苔状に匍匐する草」の意味です。田んぼのあぜ道に多い多年草で、地面に広がった匍匐枝から4～5月にきれいな薄紅紫色の唇状花をつけます。昔は、水田周りのあぜ道にはどこにでもあった草だったので、除草剤の使用から見かけることが少なくなった植物のひとつです。背の高い植物にも負けてしまいますから、いつもこまめに刈り取りが行なわれる水田まわりが一番生育に適した場所です。伝統的な水田の管理が行なわれている場所かどうかは、この植物があるかどうかで判断することができるくらい、農村の暮らしと密接に関係した植物です。ビオトープでたくさん咲いているのは、管理の良さの証明のようなものだと思います。

ムラサキサギゴケがやや湿った場所を好むのに対し、カキドオシは少し乾いた場所に生えています。ビオトープでは農道斜面下に群生していました。今のように花を咲かせている時は茎が立ちあがっていますが、花が終わると茎を横に伸ばして成長します。垣根を越えて隣の敷地まで繁茂しているという意味から、「垣根通し＝カキドオシ」と名前がついたそうです。民間薬として子供の癩（かん）をとるために使用されたことから、カントリソウという別名があります。他の薬効としては、血糖値を下げる作用と、体内の脂肪を溶解させる作用があることが挙げられます。皮下脂肪が取れて肥満が解消し、血中のコレステロール値や中性脂肪値が下がり、利尿作用により腎結石にも効くというのですから、現代にはうってつけのスーパー薬草といえるのではないのでしょうか。



ムラサキサギゴケ (ゴマノハグサ科)

カキドオシ (シソ科)

#### 4. ビオトープ関連 (連載ビオトープ近辺の案内) 事務局 原田満洲夫

##### 車地八景のその8 (須田の夜雨)

車地八景も最後の八になりましたが、今だ須田の場所が確定できません。古い登記簿や長老にも尋ねてみましたが特定できませんでした。須田という場所の夜雨がさぞ美しく感じられたのでしょうか。残念です。

そこでこの八景を清瀬峡の場所を取り上げたら如何かと思います。“清瀬の蝉時雨れ”初夏新緑のなか清瀬峡の中で聞く蝉の声は涼しくもあり心を和ませてくれる最高の里山の景観ではないでしょうか。

#### 5. 来訪者の声 (東屋のノートより一部抜粋)

今回はありません。

#### 6. 会よりの連絡事項

会員消息

原副会長 無事退院 4月15日

#### 7. 編集後記

暖かくなってくると、草木の成長は目を見張るものがあります。我が家の庭は、私の趣味で手を入れておらず、このため雑草の天国となっております。しかし、夏のことを考えると、せめて人が歩けるようにしておかなければなりません。先日、半日かけて鎌を片手に汗だくで手入れをしました。猫の額ほどの庭ですから、この程度ですみます。広いとそうはいきません。私達の“里山ビオトープ二俣瀬”も、この季節になると、より多くの作業が待っています。陸上、水中を問わず多くの植物が繁茂し、半月見ないと景色が変わってしまいます。多くの人に楽しんでもらうためには、適度の手入れが必要です。また木橋等の補修もあります。これらのための人手が、必要になってくるのです。皆さん、参集日には、どしどし集まって汗をかいてください。私達の会の趣旨を考えると、作業は極力人間の手で、動植物を傷つせず、こつこつと行うことが望ましいと、私は考えています。参加人数が少なければ、広いビオトープにおいて、これは不可能です。人手は多ければ多いほど良いのです。私も出来る限り参加して、作業の邪魔にならない程度で、汗をかこうと思います。毎回、出席する自信はありませんが。 (前田 歳朗 記)